

事務局だより

平成29年12月20日
第 3 号
岩手県学校保健会
養護教諭部会事務局発行



第41回岩手県養護教諭研究大会(報告)

11月22日(水)盛岡市文化ホール、いわて県民情報交流センター(アイーナ)を会場に、第41回岩手県養護教諭研究大会を開催いたしました。会員と大会関係者併せて、約600名の参加となりました。

「時代のニーズに応えた養護教諭の役割と専門性を深める」という研究主題のもと、午前は、静岡大学教授 鎌塚優子先生による講演が行われ、今後、養護教諭に求められる力について、ダイバーシティマネジメント力や伝える力など具体的な方向性を示していただきました。午後は、3班に分かれての班別研究協議会が行われました。各班とも、充実した研究協議会となりました。

本大会の開催にあたり、たくさんの方々のご参加と運営へのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。



祝 中沢 亮子先生

学校保健功労者表彰受賞 おめでとうございます

この度、本部会より推薦しておりました、岩手県立盛岡みたけ支援学校養護教諭 中沢亮子先生が、学校保健功労者表彰を受賞されることになりました。

12月26日(火)に開催される「第53回岩手県学校健康教育研究大会」の席上で表彰されます。

☆本部会より、祝花をお贈りいたします。





* 研修会を盛岡地区で開催しました *

11月2日（木）に、盛岡地区（矢巾町やはぱーく）において、31名の方々に参加していただき、研修会を実施しました。

今回の研修会は、会員の皆様から寄せられた「震災を経験し、内陸に移り住んだ子供への対応の仕方を知りたい」という「会員の声」から、初めて内陸での開催となりました。



* 佐々木先生の講話 *

講師の岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 特任准教授佐々木誠氏より、「ふるさとを失った子に寄り添うために」と題して、講話とワークショップをしていただきました。

「喪失や悲嘆について」や「様々な経験をした子供への寄り添い方について」お話をしていただき、また、ワークショップでは傾聴について学びました。

具体的事例も紹介していただきながら、『子供の話を聴く』ことについてわかりやすく教えていただきました。

☆参加した方の感想から☆

- 震災に限らず、親・友人を亡くした生徒に対してどのように支援したらよいか、自分の対応がその子にあった対応なのかを考えていたため、とても勉強になりました。
- 失うということがどういうことであるのか、知っているといないのとでは、対応は違うと感じました。きちんと学びたいと思いました。
- 自分自身も震災を経験しているので参加を迷ったが、参加出来て良かったです。
- 「喪失」「悲嘆」「二重過程モデル」についてもう少し学びたいと思いました。
- 自分の話の聴き方を振り返る機会になりました。
- ありのままの体験を聴くということを意識したいです。
- 被災地でも対応や声掛けが難しく感じる事例もあります。そのような事例について、助言をいただきたいと思いました。



* 研修会の様子 *



11/22 第41回岩手県
養護教諭研究大会で
研修会の様子を紹介
しました

